

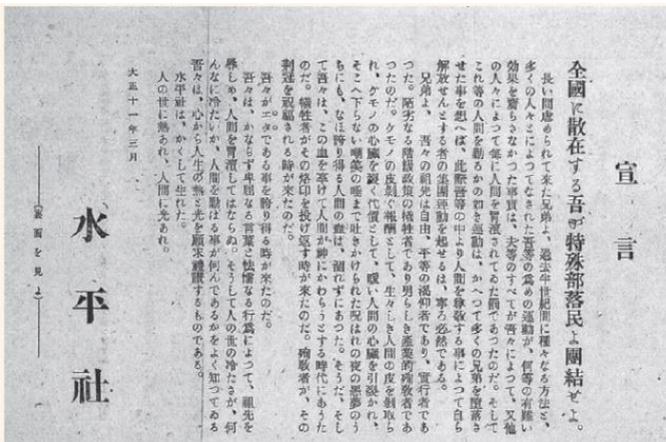
Q2

理解を深めよう もう一問!

「水平社宣言」ってどんなことが書いてあるの？

宣言の原文は被差別部落出身の一人の若者である西光万吉さんらが考えたものです。長い歴史の中で不当な差別を受けてきた人々の痛切な思いが綴られているだけでなく、すべての人があらゆる差別を受けることなく、人間らしく暮らしていける社会の実現を願う気持ちが込められています。

「水平社宣言」が出されて100年後の今、インターネットやSNSでの誹謗中傷、性的マイノリティの方への偏見や差別、さらには新型コロナウイルス感染症に関わっての差別など、新たな人権問題も発生しています。そんな今だからこそ、水平社宣言文を読み、当時の人々の願いに触れることによって、大切な気づきがあるのではないのでしょうか。



【創立大会で配付された水平社宣言】

綱 領

- 一、特殊部落民は部落民自身の行動によつて絶対の解放を期す
- 一、吾々特殊部落民は絶対に経済の自由と職業の自由を社会に要求し以て獲得を期す
- 一、吾等は人間性の原理に覚醒し人類最高の完成に向つて突進す

宣 言

全国に散在する吾が特殊部落民よ團結せよ。
 長い間 虐められて来た兄弟よ、過去半世紀間に種々なる方法と、多くの人々によつてなされた吾等の爲めの運動が、何等の有難い効果を齎らさなかつた事實は、夫等のすべてが吾々によつて、又他の人々によつて毎に人間を冒瀆されて来た罰であつたのだ。そしてこれ等の人間を勤るかの如き運動は、かえて多くの兄弟を墮落させた事を想へば、此際吾等の中より人間を尊敬する事によつて自ら解放せんとする者の集團運動を起せるは、寧ろ必然である。
 兄弟よ、吾々の祖先は自由、平等の渴仰者であり、實行者であつた。陋劣なる階級政策の犠牲者であり、男らしき産業的殉教者であつたのだ。ケモノの皮剥ぐ報酬として、生々しき人間の皮を剥ぎ取られ、ケモノの心臓を裂く代價として、暖い人間の心臓を引裂かれ、そこへ下らない嘲笑の唾まで吐きかけられた呪はれの夜の悪夢のうちにも、なほ誇り得る人間の血は、涸れずにあつた。そうだ、そして吾々は、この血を享けて人間が神にかわらうとする時代にあつたのだ。犠牲者がその烙印を投げ返す時が来たのだ。殉教者が、

その^{けいかん}荊冠を祝^{しゆくふく}福される時^{とき}が來^きたのだ。

吾^{われわれ}々がエタである事^{こと}を誇^{ほこ}り得^うる時^{とき}が來^きたのだ。

吾^{われわれ}々は、かならず卑屈^{ひくつ}なる言葉^{ことば}と怯懦^{きようだ}なる行爲^{こうい}によって、
祖先^{そせん}を辱^{はづか}しめ、人間^{にんげん}を冒瀆^{ぼうとく}してはならぬ。そうして人^{ひと}の世^よの
冷たさが、何^どんなに冷たいか、人間^{にんげん}を勤^{いたわ}る事^{こと}が何^なんであるか
をよく知^しつてゐる吾^{われわれ}々は、心^{こころ}から人生^{じんせい}の熱^{ねつ}と光^{ひかり}を願^{がん}求^{ぐら}禮^{らい}讃^{さん}
するものである。

水^{すい}平^{へい}社^{しゃ}はかくして生^うれた。

人^{ひと}の世^よに熱^{ねつ}あれ、人間^{にんげん}に光^{ひかり}あれ。

大正十一年三月

水平社